

道徳ドキュメント『ブラックバスは人気者？ 悪者？』 あらすじ

2013年2月8日 NHK Eテレ

NHKのHPより(ノーバスネット補追)

scene 01 「特定外来生物」ブラックバス

(番組案内人が釣りをしながら)おおっ、ひいてるひいてる。大物だぞー。ヨシッ。ヨシッ。釣れた一つ。……今回の主役は、こちら、ブラックバスです。ブラックバスはもともと日本にはいなかった魚です。「外来生物」といわれています。90年ほど前、つりを楽しむためにアメリカから持ちこまれたといわれています。今では、つりの大会が開かれるなど、つり人の中では人気の魚となっています。一方でブラックバスは、生態系(せいたいけい)をみだす注意すべき生き物、「特定外来生物」に指定されています。肉食のため、日本に昔からいる小魚などを食べつくしてしまうのではないかと心配されているのです。ブラックバスはかんげいすべき魚なのか、それとも悪者なのか…。まずはブラックバスとかかわりをもつ2つの場所から見ていきましょう。

scene 02 外来生物を減らす活動

ここは神奈川県にある三ツ池公園です。この日、池の水をぬいて、中にどんな魚がいるか調べていました。さがしているのは…、いました、ブラックバスです。大きさは40cmほど。三ツ池はもともと、モツゴやドジョウなど、昔から日本にいる生き物が数多くらす池でした。それが15年ほど前から、ブラックバスやブルーギルなど、いるはずのない外来生物が見つかるようになりました。そこで「池をもとの姿(すがた)にもどそう」と考えた地元の人たちが、7年前から活動を始めました。大きな池の中からすべての魚をとりだすのは、根気のいる作業です。

scene 03 外来生物の放流が後を断たない

4年前に池を調査したとき、見つかったのは外来生物ばかりでした。ブラックバスは100匹以上もいました。しかし、地道な活動の結果、外来生物は数が大きく減りました。いなかったドジョウも見つかるようになりました。それでも、池の姿(すがた)をもとにもどすのはむずしいと考えられています。それは、外来生物を池に放流する人が後を絶たないからです。これは池の中で発見されたルアーというつり道具です。ブラックバスをつるときなどに、餌のかわりに使うものです。この池では、一切のつりが禁止されているはずなのですが…。(ボランティア代表・天野隆雄さん)「釣りをしたい人たちがブラックバスをもってくるということは、厳然として事実だと思うんですね。ブラックバスが飛んでくるわけではないのですから」。

scene 04 国から許可をもらって放流

ブラックバスが放流されたことで生態系(せいたいけい)がみだれてしまう現象は、全国各地で起きています。そのため、ブラックバスを勝手に放流することは、2005年に法律(ほうりつ)で禁止されました。しかし、なかには国から特別な許可をもらって放流している場所もあります。山梨県にある西湖(さいこ)もその一つ。年間2万人のつり客がおとずれます。つれるのはヒメマスやワカサギ。そして、ブラックバス。大物がつれると評判の湖です。西湖をおとずれるつり客のおよそ半分が、ブラックバスを目当てにやってきます。

scene 05 ブラックバスは貴重な収入源

湖のそばで貸しポート店と民宿を営んでいる三浦浩一さんです。三浦さんの民宿にも、ブラックバスをねらうつり客が毎週のようにおとずれます。この民宿は50年以上前に三浦さんの父親がはじめました。三浦さんは2代目主人。家族全員で民宿を手伝っています。2人の子どもの早起きして食事の準備です。もともと西湖は、ヒメマスやワカサギのつりが主流でした。しかし、つりができる期間が限られているため、客足がとだえる時期もありました。そこで14年前、ブラックバスの放流が始まりました。三浦さんはつり客を増やそうと、宣伝(せんでん)してまわりました。「ちょっと頑張らなきゃというので、いろんなところに行って。楽しいつりだから、もっとみんなに知ってもらいたいというのがあったんで」努力のかいあって客は以前の3倍に増え、常連客もつきました。(常連客)「やっぱり社長の人柄でみんな集まるといいますよ。それで毎週、みんな楽しくやっています」(三浦さん)「ありがたいですね」

今では、三浦さんの民宿で、ブラックバスつりの大会も開催されるようになりました。ブラックバスは三浦さんにとって貴重(きちょう)な収入源(しゅうにゆうげん)です。(三浦さん)「うーん、まあ大事な宝かなと思いますけどね」三浦さんの夢は息子のカズマくんが民宿を継いでもらうことです(子どもが向こうから走ってくるシーン)。(女性の声で)「大きくなったらさ、何になる?」(カズマくん)「あのね、おとうさんの手伝いになる」

scene 06 地域の経済を支える魚として

三ツ池では生態系を乱す悪者だったブラックバスですが、西湖では地域(ちいき)の経済(けいざい)を支える魚として大事にされていました。同じブラックバスですが、地域や環境(かんきょう)が変わると、そのあつかいもまったく変わります。西湖ではブラックバスが湖から持ち出されないよう、さまざまな対策(たいさく)をとっています。つり人が持って帰らないようにパトロールをしたり、西湖から水が流れ出る水路にはあみを張ったりして、にげないようにしています。こうしてブラックバスと共存(きょうそん)してきたのです。しかし今、ブラックバスの放流を巡って西湖が揺れています。じつは、こんなことがあったんです。

scene 07 クニマスの発見

2010年、西湖で、ある魚が発見されました。クニマスです。日本だけに生息している魚で、70年前に絶滅(ぜつめつ)したと思われていました。それが西湖でひっそり生きることがわかったのです。この発見は大きなニュースとなり、クニマスを保護しようという動きも始まりました。西湖でも湖の一部での漁を禁止しました。一方、ブラックバスの放流に関してはきびしい意見が寄せられるようになりました。(西湖漁業協同組合 組合長・三浦久さん)「ま、社会的な批判っていうんですか、そういうものも出てきていますね。害になる魚を入れてもいいんですか、という問合せもあります」ブラックバスがクニマスの稚魚(ちぎょ)を食べるのではないかという声もあります。そのため、ブラックバスの放流を続けるべきかどうか、なやみ始めたのです。(三浦漁協長)やはり「メリットとかデメリットを考えながらやっていかないと。簡単に、じゃやめませうとか、いいですということも言えないですね」

scene 08 貴重な魚と生活を支えてくれる魚

西湖で民宿を営む三浦浩一さんです。三浦さんは、クニマスの発見にとってもおどろいたといいます。「クニマスはすごく貴重(きちょう)な魚なので、ぼくもこれからも大事にしていきたいし、日本で今、西湖にしかないっていわれているので、これはもう絶滅(ぜつめつ)させちゃいけないと思うんですよね。だけど、バスも大事なので...」。三浦さん

にとって、ブラックバスは生活を支えてくれる大切な魚です。そのため、放流は続けてほしいと考えています(子どものアップ)。(テロップ)ブラックバスの放流が中止されたら? (三浦さん)「うーん、かなり切実ですね。どっかにほかの仕事があれば、そっちに行くかもしれないし。まあ、ぼく息子がいるんですけど、息子に跡を継がせるっていうことは考えないと思うんですね、このまま行っちゃおうと」

scene 09 漁協での話し合い

ブラックバスの放流を続けるかどうか、この日、漁協で話し合いが行われました。これまでに3回話し合いをしましたが、結論(けつろん)は出ていません。三浦さんも参加していました。(組合長)「ブラックバスの切り替えということで、これから外来魚をどうしていったらいいか」(組合員①)「ワカサギやヒメマスがいなくなるということがあれば、おれなんかブラックバスを排除(はいじょ)したほうが良いと思うけど、今そういったこともないし、外来魚=悪ってことにはならないような」。(民宿経営・三浦浩一さん)「国がダメっていうまでは、やったほうが良いと思いますけどね」(三浦漁協長)「だけど、やめたときどうなるかということも考えれば、いろんな面からは評価はされるわな。クニマスとかいろんなものが出てきているなと」(組合員②)「やっぱりクニマスを守りたいという人も出ると思いますけど」(組合員③)「ただ、「ただクニマスは70年もの間、子孫繁栄してきたわけなんで。クニマスが何年前に見つかったから、ブラックバスがダメだとか、そういうのはよくわからない。おかしいと思いますけど」(組合員①)「ブラックバス=悪みたいだね。クニマスがよくて、ブラックバスが悪者みたいで」(組合員③)「漁協としても船宿としても、バスは残したほうが良いと思います」(三浦漁協長)「船宿のことを考えたり、経済的なことを考えれば、そういう面もあるにはあるわな」(組合員①)「社会的に、バスをやった場合、まわりがだんだんバスとか外来魚をやらない環境がどんどん強くなってから、外来魚を流出させないとか外へ出さないとか、そういう管理みたいなものは漁協としてもある程度徹底をしていかないと、やっぱり責任を果たせないというか、そういうことになっちゃうね」今後、住民もふくめて話し合うことになりました。

scene 10 どちらを優先させるか...

冬をむかえる西湖。1月と2月は一切のつりが禁止になります。魚が減り過ぎないようにするためです。三浦さんの民宿も長い休みに入ります。今後も同じようにブラックバスの釣り客をむかえることができるのかどうか、不安をかかえたままです。「どうなるんですかね。ま、ぼくの代で終わらすっていうのもさびしいんで。この環境豊かな西湖で仕事ができ、子育てができなければいばうれしいんですけどね」(三浦さん)。クニマスの保護を優先(ゆうせん)すべきか、それとも地域(ちいき)の経済(けいざい)を支えるブラックバスを優先すべきか。答えはまだ出ていません。キミならどうする?